

第10回「花まつり」愛のプレゼント特集号

浄青神奈川

行業純一

大本山光明寺御法主

藤吉慈海台下



仏道の修行において、いろいろなことが教えられているが、「行業純一」である、ということも、その一つである。私をはじめ「行業純一」という言葉を知ったのは、旧制佐賀高等学校の仏教青年会の頃であったと

思う。当時、座禅とか念仏とかを自覚的に実践し始めていたが、どうも一所懸命にならず、雑念や妄想がわいて、座禅も念仏も純粹には行ぜられなかった。その頃、行業純一という言葉聞き、仏道の実践が行業純一でなければならぬ、ということに気付かせて頂いた。

青年時代というものは、いろいろの欲望も強く、行業純一になることが困難なので、座禅の摂心会や念仏のお別時に参加して、自分の行業を純一にしようとしたものである。それでも座

神奈川浄青機関紙

第 14 号

発行日

昭和 62 年 10 月 1 日

発行所

鎌倉市材木座 6-17-19

光明寺中神奈川教務所内

浄土宗神奈川教区青年会

発行人

戸松秀明

編集委員会

森本祐宮林彦
西井久雄永原道
吉水智栄榮杉田俊
夏見裕貴

を食べることに三昧になる、というふうな工夫もしてみたが、どうもうまく行かなかったように思う。

そのようにして、日常生活や勉強の時、それから座禅や念仏をする時、その時々になんか懸念になることが大切だと思うようになった。

そういうことが行業純一ということであろうかと思ひ、念仏も座禅も、それを実践しているときは比較的楽に純一になれるようになったが、座禅していないとき、または念仏していないときが問題になった。

座禅していないときも禪定に住することが大切であり、念仏していないときでも、心は念仏を離れないような工夫が大切だと思ふようになって、行業純一ということがどういうことであるか、ということが、すこしわかるようになったのではないかと思ふ。

今でも私の生活が行業純一でなければならぬと思ふが、それは、なかなか容易なことではない。



題字・大本山光明寺御法主 藤吉慈海台下御染筆

「組だより」

京浜組



第6回子供修養会 スイカ割り大会

今年の京浜浄青会員集合日数は、何と五〇日以上に達してしまっただ。組内の活動に加え、神浄青における京浜が担当した行事の打ち合わせの膨大な時間等、改めて記録を見直した今、多忙な自坊の都合をやりくりして、浄青の為に参加してくれた会員諸師に、この場を借りて御礼を言いたい。ご協力誠に有り難うございました。

組内の活動の主なものに、布教研

修会、一泊子供修養会、家族親睦会の、この三つがあります。

第一の布教研修会、教化副団長の成田上人を講師として、五回の研修会を開催しました。本会は、会員各寺院を順番に会処として巡り、二名づつが、約十五分の布教実演を行ない、先生に実演内容に対する意見を聞くものです。(出席率八〇%以上)

第二の子供修養会は、良忠寺を会処に毎年行ない本年で五回目となり参加者は五十六名であった。八月十八日、十九日開催。

第三の家族親睦会は、十二月十六日、中華街の酔樓に於て会員の家族子供も含めて全て集合し、家族ぐるみの親睦を図っている。本年は、ご結婚祝いとして、善養寺・古庄良源師ご夫妻(S六二・二・十一結婚)を招待して当会で御祝いをしました。(今年度、見光寺・大光院で祝結婚、新会員、大安寺・水谷知靖、正行寺・白石淳雄あり)

本年の神浄青の行事の中で、特に印象的だったのは、十月の忙しさであった、10/9神浄青ソフト、10/14十夜手伝い、10/15、16他宗見学、10/20、21関プロソフト、とあり、この月だけで担当行事の打ち合わせ等を含め、16日も活動しているのである。会員各位様本当にご苦労さまでした。

港北組

港北浄青は昭和五十八年から港北組組織の方針として寺院婦人会や檀信徒総代会とともに組組織の一翼を担う立場になり、組からも財政的に多大な援助をいただけるようになってまいりました。それまで教区内唯一の浄青機関紙「港北浄青」を発行していましたが、組報「無量光」の発刊に伴い機関紙はその中に編入されました。研修活動としては、組教化分団と連携して長野から浄土宗勸学服部英淳文学博士をお招きしての布教研修会を開催しましたが、本年も十一月末に再び服部先生にお越しいただく予定であります。また、恒例の港南浄青との対抗ソフトボール大会ならびに家族親睦会は、六十一年度は日程の都合上開催できず本年五月五日の子供の日に第九回目を開催いたしました。今まで港南浄青の八勝一敗と大きく水をあげられておりますが、明年は記念すべく第十回大会となりますので神浄青の皆様には奮って港北浄青に応援していただきたく強力な助っ人を期待しております。

港南組

港南浄青の活動理念は、自行(研

修活動)・化他(大衆活動)・和合(親睦活動)の三つの柱から成っており、港南浄青創草以来、終始一貫しております。

六十一年度は、研修活動として、布教研修会を土屋光道先生を講師として四回開催致しました。六十年までは先生の講義を中心としていましたが、六十一年度からは会員の布教実践を中心へと移行致しました。もう一つの研修活動として、鎌倉組と合同の法式研修会を法儀司の津田徳翁上人を講師に四回開催致しました。

大衆活動として、歳末助け合い募金を戸塚駅前にて行い、十万四千五百十五円の浄財が集まりました。親睦活動として、港北組対抗ソフトボール大会・家族親睦会を例年開催しておりますが、昨年は、日程の調整がつかず残念乍ら開催出来ませんでした。

その他の活動として、機関誌「港南浄青」第七号を発刊致しました。以上が昨年度の活動内容ですが、今年度は五十二年十月に当会が発足して以来十周年を迎えることとなりました。そこで今年度は、十周年を飾るに相応しい意義ある事業を行いたいと考えております。

会員近況

加行成満 西立寺 山沢 敦浩
西立寺 山沢 常浩

願行寺 井上 俊道
西立寺 山沢 常浩
光安寺 長谷川昌史

鎌倉組

本年度は我が鎌倉組も新規会員を迎え徐々に若手会員の参加が見られ若返りつつある。活動内容は、法式研習会、歳末托鉢募金、等ではあるが、内容も徐々に充実し会員相互の協力も隆まりつつある。しかし活動に参加する会員の数は、今一つというところであり、今後の鎌倉組の課題でもある。

したがって、何をするにも諸事隣接する三浦組、港南組の諸兄の協力をお願いしなくてはならないが、それが又、他の組の会員との親睦を深められる結果になったとも思っている。

港南組との合同法式研習会は、年六回、今年で十年以上になるが、津田徳翁先生のご指導のもと毎回各会員が研鑽に励んでいる。最近では港南・鎌倉両組に加えて三浦組の会員の参加も有り増々その成果を上げている。又、三浦組と合同で行なわれる恒例の歳末托鉢募金では、今回も会員が寒風の中、横須賀中央駅の駅頭に立ち募金活動を展開し多く浄財の寄進を受けた。毎年の事ではあるが寒空の下、人の心の暖かさを感じ

る一日である。

さきにも述べた様に鎌倉組は活動出来る会員の数が少なく新たな活動事業は当分企画出来ないが、今、行っている活動を今後も十分に充実させ若年会員の参加を促し組の力を充実させていきたいと思う。

三浦組

浄青は法式研習会、歳末托鉢募金その後の懇親会など会員各位の親睦はとれていると思う。出席者が固定されてしまうのは今後会員等の頻繁な連絡が課題とされる。またお十夜への引声念仏は特に全国的に有名であるから、一層の研鑽が必要である。会員相互の理解は家族ぐるみで行なってもよいかもしれない。仕事の関係上会合の時間等がとれにくい。今後お互いに努力していきたいと思う。

中郡組

当、中郡組浄青発足以来十年目になり世代交代の時が来て会員が民間会社に勤めていて活動が出来ない状態です。ただ、会員相互の交流はしています。昨年西林寺住職、鈴木浄海上人並びに本年阿弥陀寺住職、斎藤棟昭上人遷化に際し受付等の手伝い、施餓鬼法要等で以前していた法式講習の実践を会員個々にしていま

す。ただ、県浄・全浄に参加する人がいない事がなにか会員の自覚に欠けているのではないかと寂しく思います。

会員近況

加行成満 善徳寺 三荒弘道師
副住職認証 円徳寺 吉永和彦師
西光寺 一 真光師
海宝寺 池田敬道師

小田原組

現在、正会員二十二名、準会員十名、計三十二名をもって構成されております。会員一人一人が、皆たいへん能力にすぐれておりますので、年一回の定期総会、執行部(役員)会議平均月一回、編集委員担当の下、機関誌(浄青おだわら)年二・三回発行がなされております。又、事業は、一、自己研鑽(資質向上)二、会員相互の親睦(レクリエーション)三、伝導教化(広報教化活動)の三点を目標に進められています。年間予算額四十万円相当をもって、毎年、家族親睦会、檀信徒を交えたボーリング大会、又夏には、「夏休み子供道場」を開催しております。

昨年箱根塔之沢「阿弥陀寺」にて、本年は箱根町「本還寺」を会場に、会員、寺庭並びに家族(小・中学生)が相集い、午前中はお経の練習、仏教の話などを聞き、午後はレクリ

エーションと、盛大に行事が催されました。又、研習会も、年二・三回、教学布教、法式と遂次変化をもたせ開催されております。

又、歳末には、小田原駅前を中心に、托鉢スタイルで街頭募金活動を展開いたしております。二十万円相当の募金は地区社会福祉協議会へと納めさせていただいております。会員相互の親睦につきましては、

本年は三竹「専称寺」にて「栗ごはんを楽しむ夕べ」と称して、栗ひろいの後、とん汁に栗ごはんを囲んで、総勢六十名の参加をいただき、炊き出しを楽しみました。

尚、このような小田原浄青の活動にあたりましては、小田原組組長、教化分団長様を相談役にOB会員指導の下、運営をさせていただいております。又、組の事業費の中から、青年会へ年額五万円の活動援助金が届いております。

このように活発な活動ができますのは、小田原組と青年会がいつも連携をとって協力のもとになされているからであります。又、十数年にわたります、歴代会長様並び、会員諸兄の努力の積み重ねによるものと思っております。

ここに、たいへん乱雑でございますが、近況を報告申し上げます。浄青だよりに変えさせていただきます。合掌

ゼント記念特集 62年4月18日



「献華」戸松氏

「金沢母子寮」

訪問記

神浄青毎年恒例の、金沢母子寮訪問。花まつり愛のプレゼント会が今年も四月十八日に行われた。午前八時有志会員十名が光明寺に集まり、各組を単位として集められた多くの浄財を四台の車に満載して、一路母子寮へと向かう。寮ではお母様方と子供達が我々を温かく迎えてくれ、全員で長い階段を荷物運びである。会は寮長の挨拶に始まり、パネルシスターや様々なゲームを楽しんだ。なかでもお母様方をも交えた座蒲団とりゲームは大変白熱したものであった。その後花見堂の誕生仏に一人ずつ子供達が甘茶をかけ合掌し、お

菓子を受取り、最後に戸松会長からお話しがあって、午後三時、会は幕を閉じた。

子供達は自分の母親だけでなく、友人やそのお母様方等多くの人達に囲まれながら共同生活をしている。しかし、大人の男と呼べるのは寮長さん一人きりで、男親の力強い愛を求めているのではないか、と思わせる行動が多々見られる。我々会員の成人男子としての一挙手一投足は、

軽はずみなものであることは許されず、彼等の父親の影としての模範とならなければならぬ。



青年会員と肩車

また彼等の住居等の経済的設備は、おせじにも素晴らしいとは言いがたい。物質的豊かさがそのまま精神的豊かさに繋がるわけではないが、犯罪・非行等の発生割合はやはり貧しい家庭の方が多いため事実である。福祉に対する公の態度への監視、それに対する問題意識、更には経済的弱者・社会的弱者への温かい思いやり等は決して頭から離すことがあってはならないと思う。

最後にも多くの浄財を寄付して下さい。 った方々への心よりの感謝と、来年からもこの有意義な行事が長く続き、多くの会員がごぞつてこの行事に参加していただきたい旨の懇願をもって、報告を終る。

林田 康順



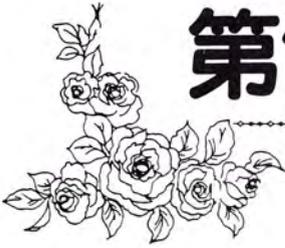
歌唱指導を真剣に受ける
母子寮の子供たち



盛り上がった「布団取りゲーム」



第10回「花まつり」愛のプレゼント



「お坊さんがぼく達とあそんでくれたり
プレゼントをくれたりしたのしかたよと二年の
お字がいました一年生の洋はおじさんたちはおせし
かう近こいしました
たごんのおくりもの多ありかどうございませう
母子寮にきてまう五年になりまうからもう五四
花まつりな
していただきました。もうすぐ、ひっこします
ほんとうにありがたうございませう

四月三日

加山タチ子

浄土宗神奈川教区青年会

御一同様

昭和六年五月十五日

金沢女子寮会長 原田照雄

浄土宗神奈川教区青年会

御中

謹啓 新緑と美しい季節となりました。皆様は御清祥のこと
あつらひ申あげます
今年も花まつりを催して下さり誠に有難うございました
心にしみとお話を伺い、そして腹の底から笑え、母も子も職員も心から
なしいひとさきとすこせて頂きました。毎年趣向とこし
温かく接して下さり皆々様々心から礼申あげます
日々の仕事の中で見聞お説教聞かたりやうい私共職員は花まつりと
通して、種々なことをお教えくださりました
あ・花まつりの日、皆々様々母子の表情と思ひ深くなる日もあり
私な心を忘れぬ様心かけいと話しました
又、沢山の贈物と御戴き、誠にありがとうございます
早速各家庭に届けて下さり、皆助かいます。と
大ようびし御品と共に温情と頂きました。心より感謝を
申あげます
子供たちも作文をいたしました。早急と一語も返送いたします
どうぞお見せいたします
時折御留御様、おすやりのお喜び下さる様心からお祈りし
右御礼申あげます。有難うございました

合掌

浄土宗神奈川教区青年会 小曾様

4月(土)花まつりを催して下さいありがとうございます
ございませう。
私は昨年に続き、2回目です
毎年趣向、アトラクションと、期々お祭りです
今年も、何を見せたいか、何の果しにしたい
おに、実は、果しの日です。
いろいろお話を聞かせ、子供達に、楽しませ
から、満足そうに子供達も、嬉しくお祭りです。
どうぞ、体に気をつけて、又、いろいろお話を聞かせ
ほしいと願っております。
本年も、感謝しております。
末筆ですが、長らくの由、ありがとうございます。

4. 12. 4. 19.

金沢女子寮

酒見 敬子
富 法子
美 貴子



子供たちの絵

第17回

全浄青中央研修会報告

古庄良源

第十七回全浄青中央研修会は、八月二十七・二十八日の両日にわたり、福岡市のホテル・ニューオータニで開催された。今回の研修会には、全国から二五〇人余りの会員諸師が参集し、神奈川浄青からは十九人の大量参加を得て、大変に熱気あふれる研修会となった。

今回の研修会は、『青年に念仏を』のテーマのもと、我々の依って立つ浄土宗義の確認と、青年宗侶各自のさらなる自己練磨、そして現代社会ならびに宗教世相のしつかりとした把握について、貴重な講演と活発な論議が交わされた。

記念講演では、西日本新聞の解説委員長で九州における、オビニオン・リーダーのひとりでもある、益田憲吉氏に『日本人の心』と題しお話を頂戴した。益田氏は現代の日本に失われつつある、『日本人の心』について、『薄っぺらな生命観』と、『歴史を見る眼の不在』及び『食生活の変化』の三点を中心に、ユーモアたっぷりな九州弁でお話しされた。続いて、大正大学講師の柴田哲彦師に『人の心を支える教え』と題し、五重伝法の位置付けとそこに流れる

慈悲の心について講義を賜った。柴田師のお話の中、「生死を共にし、喜びも悲しみも共に分かちあってゆくことこそ念仏の精神である」というお言葉は、宗侶として肝に銘ずべきことではないかと身の引き締る思いで聞かせて頂いた。

翌日の講演は、東洋大学教授の西山茂氏（宗教社会学）に『現代の若者と新新宗教』と題し、最近の世相と、それにともななって急成長しつつある新新宗教の現状等を、実例を挙げながらお話し頂いた。また、これらの新新宗教の現代の若者（所謂新人類）の心を的確に捉えた布教テクニクは、我々宗侶としても積極的に取り入れるべきであるとして、いくつかの貴重なサジェスチョンを頂いた。

さて、研修会での活発な論議とともに、会員相互の親交も深まり、懇親会のあとも、二次、三次と続いたようでした。会員諸兄、健康に気を付けて。



第15回

関東ブロック浄青総会・研修会報告

香川隆敬



第15回 関東ブロック浄土宗青年会総会並びに研修会

の力より一歩さがった生活がこつ」という先生の生き方に共鳴するも、また、その難しさを考えさせられる。講演が終わった後の懇親会も、大藪先生を囲んで楽しくすごさせて戴いた。二日目は、TBSラジオ「子供電話相談室」の曹洞宗僧侶・無着成恭先生が「21世紀に生きる子どものために」と題し、山形弁のウィットに富む口調ながら、自らの宗教観を交え、「現代の物質尊重思想から子供を守るに仏教思想が不可欠」であることを力強く訴えられた。

本年度で、第十五回を数える関東ブロック浄土宗青年会、総会・研修会は、「出会いを求めて」を大会テーマに、筑波学園都市の「ホテル・グランド東雲」を会場とし、五月二十五・二十六日の両日にわたり開催された。会場に着くと、参加者全員が黒衣・如法衣を被着して大会に臨む。恒例の開会行事に続いて総会が開催され、全ての議題が承認された。研修会は、筑波大学歴史人類学系教授という厳めしい肩書きの曹洞宗僧侶・大藪正哉先生の「腹を立てること・笑うこと」と題して人生いかに安心を得るかをテーマに講演された。会場から笑いがもれるなか、「自ら

- サイエンスシティーでの大会だからという訳ではないだろうが、早朝の勤行からは全員が起床しての熱の籠もった関東大会であったことを報告したい。尚、参加者総数は百三十八名。神奈川教区からの参加は、次の二十名でした。
- 浜(浜) 浜(浜) 浜(南) 南(倉) 倉(浦) 浦(原) 原(浦)
- (京) (京) (京) (港) (港) (鎌) (鎌) (三) (三) (小) (小) (三)
- 易栄史忍泰康彦治哲敬副理康道徳史総明雄致
- 敬智光幸了祐雄源彰隆嘉真俊岳定祥有秀賢光
- 木水藤呂岡本林橋藤川見居松中浦水郷松都水
- 佐吉伊野吉森宮高伊里鳥國野杉吉余戸北清

第四回
神奈川ソフトボール大会
北 邨 賢 雄



やっと勝てたゾ!!

に会場を移し懇親会が行なわれた。優勝チームに優勝カップが授与され、それぞれが美酒に酔いしれたものである。親睦を深めた有意義な秋の日であった。準備から当日の運営に当たった京浜神奈川の皆さんに深く感謝の意を表する次第である。

第1回戦	1	2	3	4	5	6	7	計
港南・小田原	3	1	3	0	0	0	1	8
三浦・鎌倉	0	5	0	4	0	2	×	11

第2回戦	1	2	3	4	5	6	7	計
港南・小田原	0	0	0	2	0	2	3	7
京浜・港北	4	0	3	5	0	2	×	14

決勝戦	1	2	3	4	5	6	7	計
京浜・港北	0	0	0	0	0	2	2	4
三浦・鎌倉	0	0	0	5	0	2	×	7

第四回
関プロソフトボール大会
野 呂 幸 忍

本年は神奈川の担当により昭和六十一年十月二〇日〜二十一日保土ヶ谷公園にて開催いたしました。参加人員は二日延で百四十名、当日は百二十名の参加を頂き、好天に恵まれ盛大に開催出来ました事、関プロ並び、神奈川諸大徳の御協力のお蔭と感謝致しております。

この大会は、京浜並び港南組が実行委員を担当し、両組の会員諸師に



また、準優勝か!!

は大変なご苦勞をお掛け致しました。御礼を申し上げます。

我が神奈川は二チームが参加し、南リーグにAチーム、無リーグにBチームがそれぞれの予選リーグに参加しました。その結果南リーグのAチームは四戦〇勝四敗で無念の敗退しかし、無リーグのBチームは四戦三勝一敗で、決勝戦に進出し、南リーグ優勝の茨城と対戦し、今年こそ優勝トロフィーを神奈川にの思いを胸に熱戦を繰り広げ、戦いは延長戦に及びましたが、惜しくも敗戦二位と成りました。今年こそ優勝を、いざ川越へ。

総 会 報 告

昭和六十二年年度の神奈川総会が四月十八日(土)、大本山光明寺を会場に開催された。開会の辞、戸松会長

の挨拶のあと、議長が選出され、出席者二十四名及び委任状提出四十一名の多数により総会の成立が報告され、以下の議案により熱心なる審議が行なわれた。議案は次の通り。

- 一、昭和六十一年度事業報告
- 二、昭和六十二年度事業計画
- 三、昭和六十一年度決算報告
- 四、昭和六十二年度予算
- 五、その他

最後に昭和六十一年度中に加行成満を遂げられた気鋭の方々に神奈川が授与され、盛大なる拍手により祝意を表した次第である。

伝宗伝戒成満者

(知恩院道場)

京 浜 組	慶岸寺	林田康順
港 北 組	源泉院	吉水清文
" "	大蓮寺	大橋定敏
" "	宗忠寺	夏見直貴
港 南 組	正覚寺	石川寛順
高 座 組	鶴林寺	曾我高順
三 浦 組	光雲寺	慶野匡文
鎌 倉 組	長善寺	野中和道
中 郡 組	善徳寺	三荒弘道
小 田 原 組	本誓寺	成田昌弥

(増上寺道場)

港 南 組	三仏寺	吉川瑞教
三 浦 組	法蔵院	余郷敦厚
中 郡 組	円徳寺	吉水彦彦
小 田 原 組	城源寺	古林俊晃

THE NENBUTSU in 光明寺

— All Night —

62. 1. 25 ~ 26

國松俊康

元祖様の御忌会に当たる一月二十五日夕方から、翌二十六日朝にかけて、大本山光明寺を会場に、神奈川浄青の主催としては、初めての試みとして、通夜念仏が修された。

今冬は、暖冬さみで、凌ぎやすい日が多かったが、当日は、光明寺御自慢の庭園の蓮池にも、全面に薄氷がはる程の厳しい冷え込みとなった。「一夜を徹してのお別時には、返って身が引き締まってえーやい。」という声が、会員諸師の中から、聞かれたかどうかは、定かではないが、集合時間の午後五時になると、多数の会員が集まり、大いに盛り上がりを見た。

まずは、午後七時より大殿に於いて、お勤めを行う。その後、午後八時まで、大本山光明寺執事長北郵謙順上人より御講話をいただいた。

さて、午後八時をまわり、冷え込みも更に厳しさを増してきた頃、いよいよ通夜念仏の開始である。これから始まる「苦行」を前にしての、各会員の備えは、万全だ。白衣の下には、厚手の下着を、上にも下にも何枚か重ね、所要所には、ホッカホカの使い捨てカイロを配する周到ぶりである。こうして、厳然とした黒衣、如法衣の下に、件の重装備を忍ばせた一団は、今日の念仏道場となる、「厳寒」の大殿へと向かった。

お念仏は、一時間ごとに、十分間の休憩を入れる、という形式で行われた。そして、お念仏の合間には、三十分ごとに三十回の礼拝がおりまぜられた。こうした寒い日には、礼拝が、なお一層有り難いものであることを、痛感した由。

ところで、今回のお念仏の、数取りにあたっては、念仏カウンターなる新兵器が投入された。すでに御存じの方も、多いと思うが、これは、木魚の中に、その音を感じるマイクを入れ、木魚三打で、一回カウンターするようにセットをしておく、自動的にお念仏の数が掲示されるという、たいしたすぐれものである。

阿弥陀様の前の蠟燭の灯のみの、真暗な大殿で、お念仏は続けられた。日付が変わって、しばらくたった頃には、さすがに、皆疲れてきたようだった。うっかりすると、夢現のまま、

お念仏を称えていることも、しばしばだ。ハッと気がついた時には、木魚を叩く手に、思わず力がこもってしまう。とにかく寒い。休憩の間には、甘酒やカップ麺の差し入れがあったが、冷えきった体には、熱い甘酒が、何よりも嬉しい。

真冬の長い夜が明けて、広い大殿の中にも、うっすらと明かりが、戻って来た頃には、念仏カウンターの数も、大きなものに変わっていた。お念仏もいよいよラストスパートだ。今までの疲れも忘れたように、より大きな声が、大殿いっぱい響きわたった。

最後に、朝のお勤めをして、通夜念仏は、無事に満行した。たった一晚の、短い間であったが、実に充実した有意義な夜であった。

尚、この通夜念仏は、今後、神奈川浄青の恒例行事として、毎年開催される予定なので、今回参加されなかった方も、次回には、ぜひ参加されたい。

他宗見学案内

昭和六十二年度の他宗見学は、新宗教で、あのN・H・Kのドラマで有名な沢口靖子も入信している、立川の真如苑に十一月十三日(金)に決定しました。新横浜駅前広場に朝八

時に集合しバスにて出発いたします。尚、帰りには懇親会開催の予定です。多数の参加よろしく願います。会費五千元。

編集後記

●今日、初めて編集に参加しました。諸先輩方からは大変だとは聞いておりましたが、本当に大変でした。編集委員の皆様のお熱意に驚くと共に浄青神奈川の発刊の大変さ、厳しさを身にしみて感じました。もう結構です。(Y・N)

●初めて参加いたしました。なかなかきめ細かい仕事でした。午前一時頃までかかると聞きましたが、午後十時頃に終わりました。今後ともよい編集ができますように努力してみなさまによいものをおとどけたいと思います。(T・S)

